

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京体育館
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-17-1
指定管理者	(公財) 東京都スポーツ文化事業団グループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・維持管理業務等の仕様書に従った日常・月例・年次点検、プール水質の24時間監視等により、施設・設備の適切な維持管理が行われている。 ・清掃・警備についても基準・マニュアルに基づく体制が整備され、利用者アンケートでも清掃状態（満足計84.1～91.6％）、職員対応（満足計89.8～93.1％）とも高い評価を得ている。 ・メインアリーナの稼働率99％以上を維持しつつ、令和8年度の工事休館を控えた困難な調整の中でも大会受け入れや利用者への代替案提示等さめ細かな対応を行っている。 ・法令等の遵守（個人情報保護、情報公開、環境配慮）、緊急時の対応（都への報告体制、防災訓練、AED設置、令和6年8月浸水被害を教訓とした事前対応）についても着実に履行されている。 ・財務運営については、プラス収支となり前年度のマイナスから収支状況が改善している。 ・利用者の満足度も高く適切に管理が行われていると評価できる。 ・利用者の利便性に配慮した調整を実施している。
事業効果	・「地域感謝WEEK」や近隣ホテル・大学との連携、SNSを活用した広報等により、工事休館等の制約がある中でも個人利用者数（439,738人、前年421,490人）が前年度を上回っている。 ・個人利用者数の増加、アンケートの総合満足度の高さなど、事業効果を評価できる点が多くある。 ・利用者懇談会（約30団体参加）やアンケート（総合満足度：個人93.8％、団体96.0％）を通じて課題を的確に捉え、仮設スタンドの補修や貸出備品の更新等の改善に結びつけている。 ・地域住民・学生・宿泊者向けの利用料負担軽減策に加え、障害者利用者数の増加（第1四半期＋8.8％、第2四半期＋13.1％）に対応した更衣室設備や多言語対応等、インクルーシブな環境整備を積極的に進めている。 ・東京2025デフリンピック・世界陸上の開催に際し、早朝夜間対応や飲食エリアとしての提供等イレギュラーな要望に柔軟に対応し、大会の円滑な運営に大きく貢献している。 ・スポーツ振興事業・自主事業・サービス提供事業は水準どおりであり、事業ごとの参加率のばらつきには改善の余地がある。 ・当施設は長年、様々な競技の最高峰の大会で使われてきた実績があり、聖地と位置づける競技種目も複数ある点などが評価できる。 ・高稼働率を維持している。 ・ビックルボール等のトレンドに応じたスクールを展開した。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・メインアリーナ稼働率99％以上を維持しながら、東京2025デフリンピック・世界陸上における早朝夜間対応や飲食エリア提供等、イレギュラーな要望にも柔軟かつ適切に対応し、大会運営に大きく貢献した。 ・地域感謝WEEKや近隣ホテル・大学との連携等により、制約がある中でも個人利用者数を前年度から増加させ、高い利用促進効果を上げている。 ・障害者利用者数の着実な増加に対応した更衣室設備・多言語対応等、インクルーシブな環境整備を積極的に進めている。 ・令和6年8月の浸水被害を教訓に、集中豪雨予測時の事前対応体制を構築するなど、実効性のある再発防止策を講じている。 ・収支状況が前年度のマイナスからプラスへ改善している。 ・限られた施設枠の中で利用効果の最大化と公共性の両立を図る適切な運営が行われている。 ・団体の体育施設利用収入が好調を維持していることに加え、個人利用料収入も増加している。
	改善が望まれる点	・スポーツ振興事業について、事業ごとに参加率のばらつきが大きく、参加率の低い事業の改善が求められる。
	今後取り組むべき点	・参加率の低いスポーツ振興事業について、広報力の強化や周知方法・周知先の見直し等により、参加率向上に向けた具体的な取組を進めること。 ・東京都が設置した施設（東京体育館）と、区市町村設置施設の役割分担の明確化が必要

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	駒沢オリンピック公園総合運動場
所在地	東京都世田谷区駒沢公園 1－1
指定管理者	(公財) 東京都スポーツ文化事業団グループ
指定期間	令和5年4月 1 日から令和10年 3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・維持保全業務標準仕様書を上回る1日3回以上の日常巡回点検に加え、独自の「打診検査」を新たに導入するなど、高経年施設における予防保全に積極的に取り組んでいる。 ・電気事業者との契約見直しにより再生可能エネルギー由来電力の利用比率を50%に引き上げるなど、環境配慮の取組を強化している。 ・大規模水害時における葛飾区民の広域避難先としての調整を進めるなど、防災面で都政に協力している。 ・財務運営は、27,335千円のプラス収支となり、計画を上回る収支となっている。 ・利用者アンケートにて重要度・満足度の両面から利用者ニーズの把握を行っている ・利用者の安全確保と効率的な施設利用を可能としている。 ・障害者1名を継続雇用しており、定期的な面談等を通じたフォロー体制を構築している。
事業効果	・個人利用者数は181,504人（前年比＋5,270人）、団体も10施設中7施設で90%以上の稼働を維持している。 ・利用者アンケートの総合満足度は個人97.5%、団体98.6%と高い水準となっている。 ・利用者数の増加、イベントに関わる業務を円滑に調整し無事運営したこと、総合満足度の高さなどから、事業効果が認められる。 ・東京2020大会メモリアルデーイベントを併催し、約5,000人が参加する自主事業を展開した。 ・デフリンピック開催時の運営協力、軟式野球場の柔軟な再開館対応など、都の施策に大きく貢献している。 ・多様な事業展開がなされている。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・独自の「打診検査」導入等、高経年施設の予防保全に積極的に取り組んでいる。 ・利用者アンケート総合満足度97.5%（個人）／98.6%（団体）という高い評価を得ている。 ・再生可能エネルギー比率50%への引き上げ等、環境配慮の取組がなされている。 ・徹底した点検により利用者の安全確保と効率的な施設利用を可能としている。 ・広域避難調整を進めるなど、都政への協力を実施している。 ・大規模なイベントの業務を円滑に調整し好評を博す運営をした。 ・緊急時対応や防災への配慮について十分な対応がなされている。
	改善が望まれる点	・案内表示の分かりやすさについて満足度の伸びが小さく、引き続き改善が求められる。 ・スポーツ振興事業の参加率に事業間で開きがあり、参加率の低い事業の改善が必要である。 ・「利用者の住まい」について、圧倒的に「世田谷区」次いで「目黒区」である。都立施設として広域的な事業展開も検討が必要である。
	今後取り組むべき点	・電光掲示板等を活用した案内表示の充実 ・参加率の低い事業について、ニーズに応じた種目変更等による参加率向上の継続的な取組 ・利用目的では、健康増進や筋力アップ、運動不足解消が多いが、交流イベントなどもさらに実施

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京武道館
所在地	東京都足立区綾瀬3-20-1
指定管理者	(公財) 東京都スポーツ文化事業団グループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・第二武道場の床について毎週の状態確認を行うなど、施設特性を踏まえたきめ細かな点検及び迅速な修繕対応を実施している。 ・デフリンピック開催時には植栽剪定や雨水枡への養生等、状況に応じた安全確保策を講じている。 ・省エネ活動等により、収支状況は計画を上回る20,554千円のプラス収支となり、安定的な財務運営を行っている。 ・利用増加に繋がる工夫、取り組みがされている。 ・卓球競技やスポーツ少年団武道系大会の視察にて幾度も足を運ぶ施設でもあるので、利用者目線と運営者目線の両方の観点からで評価できる ・利用者満足度調査では、使いやすさや安全管理などの項目が比較的高く、総合的な満足度の経年変化も高い水準を維持している。
事業効果	・「スポーツの日記念事業」に過去最高の14,116名が参加（従来最高9,211名を上回る）した。 ・休館日を活用した地元小学校との連携など、施設の付加価値を高める地域連携を実施した。 ・利用者アンケート総合満足度は個人96.6%、団体96.2%と高い満足度を得ている。 ・広報手法の見直しにより同程度の予算で個人利用者数を前年比7.1%増加させるなど、効率的な広報活動を実施している。 ・施設の付加価値を高める地域連携や、民間ノウハウを活かしたプログラム改善を柔軟に行い、事業効果を高めている。 ・その名の通り、1番には武道競技のための施設であると思うが、それ以外の競技にも使える間口の広さが魅力であり、アクセスの良さ、最寄り駅から徒歩圏というところが大きな利点である。 ・やや老朽化した施設ではあるが、「高速大容量Wi-Fi」や団体向け貸倉庫など利用者の利便性を図る取り組みがなされている。 ・稼働率の改善のために割引や時間外利用への柔軟な対応を継続している。 ・茶道体験等の多様かつ新規のプログラムを実施し、高評価を得た。 ・スマートフォンアプリを用いた「多言語音声ガイド」の利用により、外国人等の来館者層にも配慮したセルフガイド型の見学サービスを整備した。 ・弓道場の熱中症対策を的確に行っている。アンケートの「掲示や案内表示の分かりやすさ」でも個人91.4%、団体93.1%の高い満足度を得ている。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・過去最高となる14,116名が参加した「スポーツの日記念事業」等、水準を大きく上回る事業展開をしている。 ・広報手法の見直しにより同程度の予算で個人利用者数を7.1%増加させるなど、効率的な広報活動を行っている。 ・迅速な修繕対応を実施している。 ・施設の付加価値を高める地域連携や、民間ノウハウを活かしたプログラム改善を柔軟に行っている。 ・スポーツ振興事業において実施事業数34に対して33事業が、参加率50%以上であった。 ・利用者だけでなく保護者などの付き添いの者に配慮したと思われる大容量Wi-Fiの有料提供、電気自動車充電設備の柔軟な運営等、包括的なニーズを踏まえたサービスの導入した。
	改善が望まれる点	・自主事業の参加率が軒並み低く、また、イントラ都合による未実施も発生しているため、改善が求められる。 ・武道振興の拠点施設としての役割は何か、更なる検討が必要である。
	今後取り組むべき点	・区市町村の武道関係者との連携や指導者養成、安全指導などの講習会やセミナーなど、更なる拡大を期待する。

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	有明テニスの森公園テニス施設
所在地	東京都江東区有明2-2-2 2
指定管理者	有明テニス・マネージメントチーム
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・2時間ごとの園内巡回等、徹底した施設監視体制を構築している。 ・令和7年度から使用電力を100%再生可能エネルギーとする契約に切り替えた。 ・コロシウム、一般コートの利用増により収入が計画を上回り、修繕の直営化等で支出も抑制するなど、健全な財務運営を実現している。 ・インドアテニスコートなど申し分のない施設と管理であると利用者から聞いている点も踏まえ、適切に管理が行われていると評価できる。 ・清掃もしっかりと行われているようで、テニス場が清潔に保たれ利用者の満足度も高い。一方、テニス施設利用者のアンケート調査は母数が少ないように感じる。 ・園内巡回を実施して不正利用の防止やAEDの正常稼働等を確認している。 ・環境負荷低減にとりくみ、ゴミの分別やリサイクル等の取組も行っている。 ・施設利用収入が当初計画を上回り増収となっている。
事業効果	・屋外コートも多いことから冬場のシャワー給湯温度の引き上げ、ホット飲料の増量など利用者ニーズに応えている ・土曜・日曜だけでなく、平日の利用も多く、テニス愛好家の利用が促進されている。 ・コートサーフェス塗り替え工事という厳しい制約下でも例年以上の大会数を実施し、デフリンピック開催時も都を的確に補佐するなど、卓越した施設運営を実現している。 ・独自割引制度やバレーボールSVリーグの誘致等、多角的な利用促進策を展開している。 ・冬季の閑散期にも新規大規模大会（PRIME VIDEO BOXING等）を誘致するなど、積極的な営業活動を行っている。 ・ピックルボールの国内大会および世界大会を誘致・開催するなど、高い事業効果を生み出している。 ・こまめな仕様変更（体育館床仕様への転換）により、スポーツ利用の多角化を進めていることも事業効果を高めていると評価できる。
総合評価	S

特記事項	特に評価すべき点	・ピックルボール国内・世界大会の誘致等、新スポーツへの先進的な対応や新規大規模大会の誘致を行っている。 ・コートサーフェス塗り替え工事の困難な条件下でも例年以上の大会数を実現した卓越した施設運営を実施している。 ・デフリンピック開催時に都を的確に補佐し、大会の成功に大きく貢献した。 ・使用電力の100%再生可能エネルギー化を実現した。 ・施設利用収入が当初計画を上回り増収となった。 ・利用率も高く、現状の利用者の満足度は高い。 ・テニスの閑散期（冬季）におけるコロシウム利用促進のため積極的な営業活動を展開している。
	改善が望まれる点	・個人利用者アンケートでは、各項目の満足度が比較的低い結果となっている。 ・テニス人口を拡大させるには、既存のテニス愛好家の他にテニス初心者や関心がある人々にも普及事業を展開すべきと考える。
	今後取組むべき点	・個人利用者の各項目の満足度を高めるための取組 ・酷暑への対応として熱中症対策や日陰を増やす事など重要な課題である。 ・子供たちや青少年へのテニス普及事業の拡大

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	若洲海浜公園ヨット訓練所
所在地	東京都江東区若洲3-1-1
指定管理者	若洲シーサイドパークグループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・原則2時間ごとの巡回等、日常的な安全管理を実施している。 ・障害者用設備（ヨットなど）の充実を図っている。 ・収支状況は水準どおりであり、大きな問題はない。 ・安全面の対策観点から適切に管理が行われていると評価できる。 ・維持管理ガイドラインや定期点検に基づき、日々の維持管理や安全管理に務めていることが確認できる。 ・「緊急時アクションマニュアル」および「大規模地震発生時初動対応マニュアル」を策定し、実践的な防災体制を維持している。 ・接客・接遇マニュアルに基づく研修のほか、技術研修など専門的な研修を定期的実施している。
事業効果	・「障害者セーリング体験会」において主催団体と綿密に調整し、利用者視点に立った細やかな運営を行っている。 ・利用者アンケート総合満足度は個人92.0%、団体100%となっている。 ・利用時間の拡大（4月下旬～9月上旬）等、サービス向上に取り組んでいる。 ・専門的な利用者以外も気軽に体験できるように工夫され、ヨット教室の利用者増（8.3%増）を達成している。 ・「障害者選手育成強化事業」や「障害者セーリング体験会」など、障害のある利用者の視点に立った細やかな運営を行っている。 ・写真撮影等の施設利用など、安定的な収入確保と利用者満足度の両立を実現している。 ・大規模工事対応において、ジュニアヨット教室運営との両立を図るなど、専門的な施設特性を踏まえた調整力を発揮している。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・「障害者セーリング体験会」における利用者視点に立った運営等、障害者スポーツの振興に寄与している。 ・利用者アンケート総合満足度92.0%（個人）／100%（団体）という高評価。 ・大規模工事への対応 ・施設管理や安全管理、参加者の満足度は評価が高い点。 ・利用者の声を反映し、利用時間の拡大した点。専門的な体制を整え、近隣中学校の特別支援学級によるヨット体験を積極的に受け入れ、生徒・教員から高い評価を得るなど、都の施策に貢献している点
	改善が望まれる点	・スポーツ振興事業の事業別実施において、定員に対する参加率に大きな開きがある、マリンフェスティバルやヨット教室などでの参加者増を期待したい。 ・屋内でのイベント等天候に左右されない事業の実施や、利用者の着実な増加が望まれる。
	今後取組むべき点	・引き続き天候に左右されない利用者確保に向けた取組を進めること。 ・専門的な用具を所持していなくても気軽に体験できるとの案内を今後も更に推し進め、周知・発信をしてセーリングを体験できる人を増やしていくこと。 ・マリンスポーツに対する都民の興味を増すための啓発事業（広報含む）

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	京王アリーナTOKYO（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
所在地	東京都調布市西町290-11
指定管理者	東京スタジアムグループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・事務職員による初期対応と技術職員への的確な引継ぎ体制により、故障時の影響を最小限に抑えている。 ・大規模国際大会（デフリンピック等）を見据えた聴覚障がい者向け避難訓練の実施等、実践的な防災対策を講じている。 ・前年度収益増の一部を都へ還元する仕組みを整え、健全な財務基盤と公益性を両立している。 ・適切に管理が行われていると評価できる。 利用者の満足度調査などにおいて、非常に高い評価を受けている。 ・接遇面でも質の高いサービスを実践している。 ・護身術や凶器保持者への対処法など、職員の初動対応能力および安全防衛スキルの向上にに取り組んでいる。
事業効果	・スポーツ振興事業、自主事業においても前年度以上の参加者を集めている。 ・ネーミングライツ導入（京王アリーナTOKYO）や京王電鉄との連携により、トップアスリートによる直接指導等、多摩地域住民のスポーツ振興に寄与している。 ・利用者アンケート総合満足度は個人95.4%、団体94.8%と極めて高水準であり外部専門機関による分析結果を踏まえ、施設名称変更等の具体的改善に繋げている。 ・調布市の屋外プール休止に伴う夏季無料開放等、地域と一体となった公共性の高い対応を実施している。 ・利用者の増加、幅広い事業の提供、利用者満足度の高さ、施設認知度の向上、都の施策に対する多角的・主体的な貢献など、非常に高い事業効果を出していると評価できる。 ・メイン・サブアリーナ共に高い稼働を維持している。 ・ネーミングライツ導入等による認知度向上の効果が得られており、着実な利用促進が見られる。 ・駐車場の混雑状況をSNS等を通じてリアルタイムに発信している。
総合評価	S

特記事項	特に評価すべき点	・自主的な働きかけによるネーミングライツ導入（京王アリーナTOKYO）で外部資金を獲得するとともに、施設認知度を大きく向上させた。 ・障害者スポーツの振興、幅広い利用者ニーズの把握し事業に反映している。 ・調布市の屋外プール休止時の子供向け無料開放など、多摩地域の広域防災拠点として公共性の高い対応を行っている。 ・独自の取組として、調布警察署の指導による護身術や凶器保持者への対処法（さすまた・盾の使用法）に関する訓練を開催している。 ・前年度収益増の一部を都へ還元する仕組みを整え、公益性を担保していること。 ・京王電鉄株式会社との連携によるトップアスリートからの直接指導の機会創出や、独自制作した体験型プロジェクションマッピング動画の提供など、参加者が体を動かす楽しさを体感できる工夫を凝らしていること。 ・団体利用に対しては、柔軟な入退館対応をし、イベント開催時には職員が待機するなどの対応をしていること。個人利用の開場時間を延長し、多様なライフスタイルに応じた利用環境を提供していること。
	改善が望まれる点	・利用者数は増加しているが、体育施設利用料収入が、計画を38,114千円下回る結果となっている。
	今後取組むべき点	・アート面等、多方面での取組の更なる充実 ・アリーナ施設での観戦型スポーツの展開

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	海の森水上競技場
所在地	東京都江東区海の森3-6-44
指定管理者	海の森水上競技場マネジメント共同企業体
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・大型イベント誘致（JO1等）に向けた輸送・警備計画の綿密な調整等、伴走型サポートを実施している。 ・使用電力の再生可能エネルギー100%化を実現している。 ・施設利用料収入の増加により、収支状況は、計画を上回る25,686千円のプラス収支となっている。 ・適切に管理が行われていると評価できる。 ・海に近接する水上競技場特有の環境（鳥獣、魚、塩害など）を考慮した独自マニュアルの策定や安全管理などへも十分な配慮がなされている。 ・共同事業体としての利益配分について、透明性と正確性の高い会計処理をしている。
事業効果	・利用者アンケート総合満足度は全体90.7%、団体では100%である。 ・スポーツ振興事業や自主事業などの参加率向上が望まれる。 ・個人利用者実績は前年比17%増で、着実な利用拡大している。 ・アクアティクスセンター、カヌー・スラロームセンターとの連携による宿泊場所提供等、周辺施設との多角的な連携を推進している。 ・都の「東京ベイeSGプロジェクト」の約9割（14プロジェクト）を受け入れるなど、最先端技術の実証実験の場として貢献している。 ・大会開催状況については、目標を6大会を上回る開催実績を上げている。 ・周辺施設との連携を多角的に図っており小学生の社会科見学の受け入れ、他の施設と連携し宿泊場所提供など、周辺環境を活かした連携策を講じている。
総合評価	B

特記事項	特に評価すべき点	・大型イベント（JO1等）誘致に向けた綿密な調整力 ・「東京ベイeSGプロジェクト」14プロジェクトの受け入れ等、都の先端施策への貢献 ・周辺施設（アクアティクスセンター、カヌー・スラロームセンター）との連携による宿泊場所提供等の取組 ・電力の再生可能エネルギー100%を実現していること。 ・周辺施設との連携を多角的に図っていること。 ・競技団体との連携や小学生の社会科見学受け入れなど、管理運営業務以外で努力していること。 ・合宿利用に伴う早朝練習・夜間チェックインなど、営業時間外の利用ニーズに対しても柔軟な対応を行っている。
	改善が望まれる点	・スポーツ振興事業や自主事業の工夫や参加者数の増加を望む。 ・団体利用については、前年比2.2%減については、さらなる稼働率の向上を図っていただきたい。施設内の案内表示に関するアンケート満足度が比較的低い。
	今後取組むべき点	・天候による中止を見据えた計画の立案 ・更なる多様な利用と合宿所としての利用度向上

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	夢の島公園アーチェリー場
所在地	東京都江東区夢の島2-1-4
指定管理者	アメニス夢の島グループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・大型イベント（バブルナイトイベント）の日程調整等、競技利用とイベントの両立を図っている。 ・利用者向け独自の「熱中症チェックリスト」作成など、主体的な防災対策を実施している。 ・体育施設利用収入が計画比134%（1,630千円増収）となるなど、安定した財務状況を維持している。 ・事故への対応など、適切に管理が行われていると評価できる。 ・芝生維持管理について専門性の高い植栽管理を実践している。 ・利用調整により稼働率は昨年度を上回り、着実な利用促進に繋がっている。 ・利用者向けに「緊急時対応マニュアル」や「熱中症チェックリスト」を独自に作成し、提供している。
事業効果	・提案書にない新規イベント「ティラノサウルスレース」を実施し、前年度参加者数から大幅に増加させた。 ・来場者の大幅増加を記録するなど、運営者の努力がうかがえる。 ・多目的利用が大幅に増加した。 ・イベントでは参加する子供の付き添いで来場した保護者向けに無料アクティビティを提供し、効果的な事業展開を行っている。 ・都立スポーツ施設間の横連携として、大井ホッケー場への運営知見の共有等を実施している。 ・稼働率は昨年度を上回る水準で推移している。 ・利用者の増加、効果的な自主事業の展開などから、事業効果が認められる。 ・多様なイベント利用を促進している点。 ・前年度実績を上回る49大会を開催をした。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・新規自主事業「ティラノサウルスレース」の実施など企画力 ・大井ホッケー場への運営知見共有等、施設間連携の取組 ・スポーツ施設利用収入が計画比134%となるなど、着実な収支改善 ・利用調整の積み重ねにより、着実な利用促進に繋がっていること ・効果的な自主事業を展開していること。 ・ヨガやフライングディスクなど多様なものに利用されている点 ・イベントは当初計画を上回る開催回数や種目を提供している点 ・提案書にはない大型イベントを新規に実施し、また大盛況となったこと ・子供と保護者の両方に向けた効果的な事業展開を行っていること
	改善が望まれる点	・団体稼働率の向上 ・デジタルツールの活用による利便性向上については検討が必要
	今後取組むべき点	・暑さ対策など、より使用しやすい施設とするための取組 ・アーチェリーが身近に感じられるような事業、アーチェリー人口増に寄与するような事業もを増やすこと。 ・アーチェリー経験者以外の都民への啓発・普及活動

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	カヌー・スラロームセンター
所在地	東京都江戸川区臨海町6-1-1
指定管理者	株式会社協栄
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・第三種主任電気技術者等の専門資格を有する自社職員による迅速な初期対応・修繕を実施している。 ・「換水清掃マニュアル」の新規作成等、水上施設特有の課題に主体的に取り組んでいる。 ・水難防止イベント「カヌスラで海そなえ」を前年度1回から13回へ大幅に拡大し、収支も計画比106.4%を達成している。 ・安全対策が整っている点やコース管理から適切に管理が行われていると評価できる。 ・ライフセービング協会等と連携し、水辺の安全管理に努めている。 ・救助と救命について高度な危機管理体制を自社内で構築している。
事業効果	・利用者アンケート総合満足度は個人96.2%、団体100%と極めて高水準である。 ・ラフティングツアーを計画より14回上回る24回開催するなど、大幅な実績増を達成しているものの、参加者数は前年より減少している。 ・独自の「公式ガイドブック」を作成し都立18施設等27箇所へ配架するなど、広域的な認知度向上に貢献している。 ・葛西臨海公園との連携割引プラン等、地域一体となったサービス提供を推進している。 ・多様な都民が水上スポーツに親しみ、施設を楽しめるよう多角的な事業を展開していること、利用者満足度の向上に向けた独自の工夫、普段水上スポーツに馴染みのない層も含めた幅広い都民の誘致・集客を推進していることなどから、事業効果が認められる。 ・葛西臨海水族園との連携、新しいイベントの試みなどの点が評価できる。 ・水上だけでなく陸域も有効に活用した新規顧客の開拓に努めている。
総合評価	S

特記事項	特に評価すべき点	・水難防止イベントの大幅拡大（1回→13回）等、水上施設特有の安全教育への積極的な取組 ・独自ガイドブックの作成・広域配架等、主体的な広報活動 ・利用者アンケート総合満足度96.2%（個人）／100%（団体）という極めて高い評価 ・専門資格を有する自社職員を中心とした、配慮の行き届いた安全管理の徹底 ・アルバイト職員へも「認定スポーツ救急員プロバイダー」の資格を取得させていること。 ・極めて安定した財務状況を維持していること。 ・普段水上スポーツに馴染みのない層も含めた幅広い都民の誘致・集客を推進していること。 ・障害者やキッズも含め、多くの世代や層を対象にした取組 ・安全管理の徹底 ・猛暑期における日中の利用控えを見据え、新たな取組を導入したこと及び競技選手と一般利用者の異なる要望に応じた調整
	改善が望まれる点	・会議室等稼働率の低い施設の利用実績向上 ・カヌースクールをはじめ、スポーツ振興事業及び自主事業の参加者数増加の取組 ・団体利用の稼働上昇や記録的な猛暑の影響等で、個人利用が約10%減少した点に関する改善及び障害者が利用するための水辺のスロープの改善
	今後取組むべき点	・区市町村教育委員会と連携した学校単位の社会科見学

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場
所在地	東京都品川区八潮4-1-19、大田区東海1-2-1
指定管理者	アメニス海上南部地区グループ
指定期間	令和5年4月1日から令和8年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	- 年間経費計画127,254千円に対し、実績105,769千円と21,485千円の大幅なコスト削減を実現している。 - 収入も計画を10,288千円上回る、137,767千円となっており、良好な財務運営となっている。 - 電力の再生可能エネルギー切り替え等、脱炭素の取組を実施している。 - 清掃作業や人工芝管理の評価が高い。 - 施設環境のさらなる維持向上のため、人工芝メンテナンスを拡充させている。
事業効果	- ラクロス・フラッグフットボール等の利用増により、利用コマ数が大きく伸長（メインピッチ456→523コマ等）し、また、大会数は目標を達成した上で前年（47大会）を上回る52大会を実施するなど、前年を上回る稼働となっている。 「フラッグフットボールスクール」「ティラノサウルスレース」などトレンドを捉えた新規自主事業を展開している。 - 早朝7時からの開館等、利用者ニーズに寄り添った柔軟な運営体制を構築している。 - 目標値を大幅に上回る来場実績を記録するなど、事業効果が認められる。 - 特に夏季においては、過酷な暑さへの対策や学生の練習時間の確保の点から、早朝からの開館を実施し、運営体制に対して努力が見られる。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	- 大幅なコスト削減（計画比▲21,485千円） - ラクロス・フラッグフットボール等新規競技の利用拡大、大会数の増加（47→52大会）及び利用コマ数の増加 - 自主事業の参加者数の大幅な増加 - トレンドを捉えた新規自主事業（ティラノサウルスレース等）の展開 - 利用者のライフスタイルや競技ニーズに柔軟に寄り添い、平日の早朝利用に対して職員のシフト勤務体制を敷いて確実に対応していること。 「エンジョイホッケー」の参加者数が大幅に増加したことは評価できる。
	改善が望まれる点	- 団体利用者の稼働率のばらつきが課題 - 自主事業やスポーツ振興事業において、事業数の工夫 - 事業を進めるにあたり、資料や議事録などの適切な作成・蓄積を徹底すること
	今後取組むべき点	- 赤字となっている自主事業の収支改善 - ホッケー場でのラクロスやフラッグフットボールのイメージがないため、より情報の発信が必要 ラクロスとフラッグフットボールが次のロサンゼルスオリンピックの追加種目であることを契機とした認知度向上の取組

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京アクアティクスセンター
所在地	東京都江東区辰巳2-2-1
指定管理者	事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・清掃作業基準書やマニュアルの写真活用等による標準化を図り、高い清掃品質を実現している。 ・年間17種類に及び豊富な研修計画を実施し、有資格者を適切に配置している。 ・光熱費を大幅削減（59,685千円）できている。 ・安全性の確保、衛生面の維持管理など不可欠な施設であるため、そういった点に特に着目したうえで適切に管理が行われていると評価できる。 ・設備管理や環境への配慮など、事業計画遺書に則って適切に行われている。 ・救急救命講習に関しては、事業団職員が全員救命技能認定を取得しているほか、ライフガード等の現場スタッフについても必要に応じて適宜取得させている。 ・多くの組織と調整し新規の大型大会を誘致している。
事業効果	・個人利用人数は前年度実績を上回っているが、団体利用状況については前年度を下回っている。 ・全体の来場者数は前年度を下回る結果となっている。 ・東京辰巳アイスアリーナとの間で「アクアシャトルバス」の運行を開始するなど、施設間連携を推進している。 ・利用者アンケート総合満足度は個人93.6%、団体90.7%と、年々向上している。 ・多言語通訳サービスツールの導入等、外国人利用者への対応を強化している。 ・CO2排出削減策を推進し、光熱水費・エネルギー使用量を前年度から削減している。 ・自主事業の欄、毎年プログラムのリニューアルが行われている点が評価できる。 ・子どもやシニア、障がい者、水泳ボランティアといった多様な層へ向けた多彩なプログラムが行われている。 ・施設合同で実施した地域クリーンウォーキング、海の森水上競技場での合宿など、多角的な連携を推進している。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・辰巳アイスアリーナとのシャトルバス運行等、施設間連携を推進している。 ・利用者アンケート総合満足度の継続的に向上している。（令和5年度81.1%→令和7年度93.6%）。 ・職員の研修体制について極めて豊富な計画に則った研修を確実に実施した。 ・施設提供について、優れた利用促進の成果を収めている。 ・前年度からエネルギー使用量の削減を達成したこと。 ・多彩な自主事業、スポーツ振興事業を行っている。 ・土日や大規模大会開催時等の食事に関するニーズに対応している。
	改善が望まれる点	・スポーツ振興事業の参加率を高めること。 ・多数の事業展開は評価できるが、東京都が実施する広域的な水泳振興事業とは何か検討してほしい。
	今後取り組むべき点	・外国人の利用や観戦も見込まれるため、施設までの表示及び施設内の表示のわかりにくさや使いにくさの解消。 ・環境配慮への取組みのさらなる深化 ・水泳指導者や安全管理などの普及

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京都パラスポーツトレーニングセンター
所在地	東京都調布市西町376-3
指定管理者	(公社) 東京都障害者スポーツ協会グループ
指定期間	令和5年3月1日から令和10年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・適切に管理されており、安心・安全な施設運営に努めている。 ・有資格者の配置の観点から評価できる。 ・障害者使用に伴う、安全管理や清掃などが十分行われている。 ・計画と実績に大幅な相違はなく適切な財務状況が保持されている。 ・事業係及び管理系の全職員12名が「初級パラスポーツ指導員」以上の資格を保有している。
事業効果	・個人利用者数が令和6年度2,194人から令和7年度3,337人へ152.1%の大幅に増加している。 ・体育室の団体稼働率が67.6%から83.9%へ向上している。 ・令和7年度から「意見交換会」形式での利用者懇談会を開始し、アンケート回答者数も増加している（総合満足度：個人97.1%、団体90.7%）。 ・送迎車両をマイクロバスへ変更し乗車可能人数を増やす等、アクセス改善に取り組んでいる。 ・年間利用者数の増加は確認できるが、障害者へのスポーツ振興の観点で更なる努力をお願いしたい。 ・無料送迎バスの乗車可能座席数を増やし、利用需要に合わせてダイヤ見直し、利用者増に繋げている。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・個人利用者数が前年度から152.1%増加するなど大幅な利用が促進 ・体育室の団体稼働率向上（67.6%→83.9%） ・「意見交換会」形式での利用者懇談会の新規開始等、利用者の声を運営に反映する取組 ・パーソナルトレーニング（健常者3名、当事者29名の計32名）やパッケージプラン等を実施していること及び「施設見学対応についても幅広い層を対象とした施設見学に対応していること。
	改善が望まれる点	・遠隔地からの訪問に向けた広報活動の拡充 ・参加率50%以下の事業について、参加率向上の取組が必要 ・収入源である体育施設利用料の実績額を計画額に近づけること。 ・区市町村の障がい者スポーツ振興について、区市町村との連携及び指導者養成の取り組みをすること。
	今後取組むべき点	・利用者ニーズの把握及び運営反映のための懇談会等の継続的な実施をすること。 ・障害者の身体特性やそれを効果的に伸ばすための科学的トレーニング、安全管理など、専門的な機能を発揮していただきたい。 ・第4期スポーツ基本計画の方針にある障害者へのスポーツ指導に関する知識・スキル不足に対する取組や発信が望まれる。

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京都障害者総合スポーツセンター
所在地	東京都北区十条台1-2-2
指定管理者	(公社)東京都障害者スポーツ協会
指定期間	平成28年4月1日から令和8年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	- 適切に管理が行われており、施設運営は安定している。 - アナログとデジタル両面からの案内や発信がされている。 - 障害者の特性に配慮した施設運営（維持管理）が行われている。 - 正規、契約、アルバイトの各職員を適切に配置している。 - 財務諸表により、施設の運営が健全に保たれている。計画と実績の間に大きな相違がない。 - 防災訓練については、近隣施設合同による総合防災訓練を実施している。
事業効果	- 利用者アンケートの実施期間を延長し、回答件数が前年度比36.2%増加した（348件→474件）。総合満足度は個人96.2%、団体93.3%となった。 - 握力補助グローブ、伴走用の紐の設置等、障害特性に応じた細やかな設備対応を実施している。 - 月2回のプール救助訓練等、安全対策を継続的に実施している。 - 利用促進の取組が評価できる。 - 当施設を利用することで、障害者に生きがいに寄与できている。 - 個人利用者数が、昨年度から増加している。団体利用者数も増加している。 - 医療・福祉・教育連携講座等のアウトリーチ事業を展開し、関連従事者の施設への理解促進を図っている。 - 全職員を対象にパラスポーツの研修を実施しているほか、プール救助訓練及び普通救命講習を実施している。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	- 利用者アンケートの回答件数を前年度比36.2%増加させるなど、利用者の声の把握を強化 - 安全安心な施設環境を提供するため、握力補助グローブや伴走用の紐の設置等、障害特性に応じたきめ細やかな設備対応 - 利用者数の大幅な増加 - 健康スポーツ相談事業においては利用者との事前のヒアリングを重視し、障害の程度に応じた専門的なアドバイスを実施していること。
	改善が望まれる点	- アンケートで不満を持つ層へのコミュニケーションやニーズの把握が十分に進んでいない。 - 利用者への対応以上に、東京都全体の障害者スポーツ振興への寄与が望まれる。
	今後取組むべき点	- 障害のある方がよりスポーツを楽しめるように健常者と一緒にプレーできる機会の拡大 - 区市町村の障害者スポーツ振興について、区市町村との連携及び指導者養成の取組 - 行政や教育機関等に向けた、障害者スポーツを「支える」人材に対しての情報発信を行っているが、第4期スポーツ基本計画の方針にある障害者へのスポーツ指導に関する知識・スキル不足に対する取組や発信が望まれる。

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京都多摩障害者スポーツセンター
所在地	東京都国立市富士見台2-1-1
指定管理者	(公社) 東京都障害者スポーツ協会
指定期間	平成28年4月1日から令和8年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	・充実した研修を実施している。 ・全館LED化・太陽光発電導入、供給電力の100%再エネ化を実現している。 ・障害者スポーツの拠点として不可欠な施設であるとの前提から、特に清掃や人員配置等における管理状況が評価できる。 ・利用者が安全に楽しめるよう、事業計画に沿って施設管理が行われている。 ・各施設に正規・契約・アルバイトの各職員を適切に配置している。また、障害者雇用も行っている。 ・施設運営の財務状況は健全であり、年度計画通りに執行されている。
事業効果	・利用者アンケート総合満足度は個人96.2%、団体93.3%と高水準であり「掲示や案内表示の分かりやすさ」の不満割合を個人8.3%、団体4.4%まで低減させた。 ・新たに「パラスポーツトレーナーアドバンスタイム」を実施し、個々の障害に応じたトレーニング指導を提供している。 ・カヌー・スラロームセンターと連携した「パラカヌー教室」等、施設間連携を推進している。 ・視覚障害者へのHP読み上げ機能の備えなどが評価できる。 ・個人利用者数が昨年度から17.0%増加している。団体利用者数も増加している。 ・シャワーブースへの衣類掛け設置や、プール更衣室における背もたれ・手すり付きイスへの交換等利用者のニーズに合わせて設備改善を実行している。 ・広く民生委員の会合への出席、センター見学会の受入れ等を通じて地域連携を推進している。
総合評価	A

特記事項	特に評価すべき点	・供給電力の100%再生可能エネルギー化等、環境配慮の取組 ・「パラスポーツトレーナーアドバンスタイム」の新設等、利用者個々のニーズに応じたきめ細やかなサービス ・カヌー・スラロームセンターと連携した「パラカヌー教室」等、施設間連携をの推進 ・充実した研修体制により、対応力の向上を図っていること。 ・専門のトレーナーが利用者個々の障害に応じた具体的なトレーニングや運動方法のアドバイスをを行っていること。 ・多摩地区の民生委員や特別支援学校、地域振興団体との連携協力を励まれていること ・運動相談事業において利用しやすいように改善し利用者が増加したこと。
	改善が望まれる点	・多摩地区市町村（障害者担当）との更なる連携
	今後取組むべき点	・近隣施設との施設間連携などの更なる深化 ・行政や教育機関等に向けた、障害者スポーツを「支える」人材に対しての情報発信を行っているが、第4期スポーツ基本計画の方針にある障害者へのスポーツ指導に関する知識・スキル不足に対する取組や発信が望まれる。

都立スポーツ施設等指定管理者評価委員会
2次評価

施設名	東京辰巳アイスアリーナ
所在地	東京都江東区辰巳2-2-1
指定管理者	セントラルスポーツ株式会社
指定期間	令和7年6月1日から令和12年3月31日まで
評価対象年度	令和7年度

項目	評価の観点
管理状況	- 概ね適切に管理が行われていると評価できる。 - アイスアリーナという特殊な施設においても適切な維持管理が行われている。 - 半年間の現実的な運用数値が明確になったことで、来年度の事業計画に反映させる体制を整えている。 - 環境配慮・省エネルギーへの取り組みとして、節電・節水・再生可能エネルギーの活用に努めている。 - 計画を下回る収入と、支出増による実績収支のマイナスが生じている。
事業効果	- 通常開館時間外の「ナйтスケート」「ナйтカーリング」を新設し、参加者数を拡大している（ナйтスケート参加者13名→約40名）。 - 個人利用および団体利用のアンケート結果のうち、安全管理、案内表示および総合的な満足度が低い - 個人利用でほぼ満足しているとの結果だったが、団体利用については、「満足・まあ満足」は5割にとどまっている。 - 情報発信、大会誘致などの取り組み、また幅広い層を対象とするなどにより、事業効果が認められる。 - 新しい施設であることから、今後益々のイベント利用増加や個人利用者増に期待が持てる点を加味しながら評価させていただいた。 - ホームページや紙媒体だけでなく、SNSなども通じたい広報活動の効果で来場者の増加を達成している - 施設のPRと今後の利用者増につなげるため、観戦招待の取り組みを行っている。 - 事業実施後には参加者との懇親会の機会を設けてニーズの把握に努めており、スケートスクールについては土日にも開催するなどの努力がみられる。
総合評価	B

特記事項	特に評価すべき点	「ナйтスケート」「ナйтカーリング」の新設等、施設の稼働時間を有効活用した独自の取組を実施している。
	改善が望まれる点	- 施設賠償責任保険について、管理運営基準の要件（1人につき3億円以上）を満たす加入が当初確認できていなかった点は重大な指摘事項であり、再発防止の徹底が必要である。 - 団体利用については、アンケート結果のうち、安全管理、案内表示、総合的な満足度が低い。 - 団体利用状況における稼働率の向上が望まれる。 - 元々、動線の複雑なプールであった施設を利用しているため、構造上動線の複雑さは仕方がない点もある。特に日々の開放状況によって動線が変化する状況があるため、更なる工夫と改善が必要である。
	今後取組むべき点	- 収支の改善と収支計画の精緻化をすべきである。 - 事故を想定した安全管理の徹底をすべきである。 - 気軽にカーリング体験ができることなどを情報発信するなど、身近なスポーツあることをもっとPRできる。また、競技による氷の違いなど魅力的な情報の発信や解説をするなど、利用者の興味を惹きつけるさらなるコンテンツ発信が望まれる。